

## 貢献度分析

野坂 朋永

## 貢献度分析の考え方

- 経済性の観点から商品の貢献度を調べるには、単に売上高だけで、比較するだけでは、不十分である。
- それには、宣伝費、人件費、管理費などの費用も濃い考慮しなくてはならない。
- 貢献度分析は、この中の在庫に関わる部分に注目する。

## 在庫に関わる費用とはなにか？

- 商品を保管するためのコスト。(保管用のスペース代、冷蔵庫のような設備など)
- しかし、保管費を抑えようとして在庫の量を少なくすぎると、需要があるのに商品が売れない品切れ損失になる。
- 品切れは、販売機会を失うだけでなく、メーカーのイメージダウンに繋がる可能性があるので注意する。
- 効率よく在庫管理ができていないかを示すために、次のような式がある。式は一定期間における観測値である。
- 在庫回転数 = 売上高 ÷ 在庫量

## 回転数だけで貢献度を考えるのは十分か？

- 在庫回転数の数値は、もちろん大きいほどよいが、分母の在庫量を減らしすぎると品切れになり、その商品が貢献したかどうかは微妙になるので回転数だけで考えるのは不十分。
- そこで、商品の売上高から売上原価を差し引いた粗利益、商品の売上高の総売上高に閉める割合である売上構成比の2つの要素を使い次のように計算する。

## 貢献度の求め方

- 粗利益 = 売上高 - 売上原価
- 粗利益率 = 粗利益 ÷ 売上高
- 売上構成比 = 売上高 ÷ 売上高の合計
- 交差比率 = 粗利益率 × 在庫回転数
- 貢献比率 = 交差比率 × 売上構成比
- 貢献度 = 貢献比率 ÷ 貢献比率の合計

商品No.	売上高	売上原価	在庫量
No1	850	425	300
No2	1236	800	1310
No3	1598	600	750
No4	2410	2210	520
No5	3790	3640	44500
No6	4755	4500	3330
No7	5931	5000	5550
合計	20570		

商品No.	売上高	売上原価	在庫量	在庫回転数	粗利益	粗利益率	売上構成比	交差比率	貢献比率	貢献度
No1	850	425	300	2.83	425	0.500	0.041	1.417	0.059	0.196
No2	1236	800	1310	0.94	436	0.353	0.060	0.333	0.020	0.067
No3	1598	600	750	2.13	998	0.625	0.078	1.331	0.103	0.346
No4	2410	2210	520	4.63	200	0.083	0.117	0.385	0.045	0.151
No5	3790	3640	44500	0.09	150	0.040	0.184	0.003	0.001	0.002
No6	4755	4500	3330	1.43	255	0.054	0.231	0.077	0.018	0.059
No7	5931	5000	5550	1.07	931	0.157	0.288	0.168	0.048	0.162
合計	20570				3395		1		0.299	1